

八尾市  
中学校卒業後の子どもに関する  
アンケート調査結果報告書

---

【概要版】



令和6年3月  
八尾市

# 1 調査概要

## (1) 目的と方法

### ◆ 調査目的

本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話を日常的に行う子どもいわゆる「ヤングケアラー」の課題や実態を把握するため、中学校卒業後の高校1年生から高校3年生相当の年齢（平成17年4月2日～平成20年4月1日生まれ）の子ども（以下「高校生等」という。）を対象にアンケート調査を実施し、ヤングケアラーに該当する子どもが担っているケアの状況やケアによる生活への影響、支援ニーズ等を把握し、支援のあり方について検討しました。

なお、アンケート調査の実施を通じて調査対象者に相談できる場所や機関があることを周知し、当事者の相談支援につなげる機会としました。

### ◆ 調査方法及び期間

調査は下記の通りの方法と期間で実施されました。

調査対象	平成17年4月2日～平成20年4月1日生まれの方 (高校1年生から高校3年生相当の年齢の方)
調査方法	郵送配付・郵送回収及びインターネット回答
調査期間	令和5年10月30日～令和5年11月24日

### ◆ 回収率

回収率は以下の通りです。

配布数	有効回答数	有効回答率
7,020通	1,612通 (WEB: 1,270通、郵送: 342通)	23.0%

### ◆ 備考

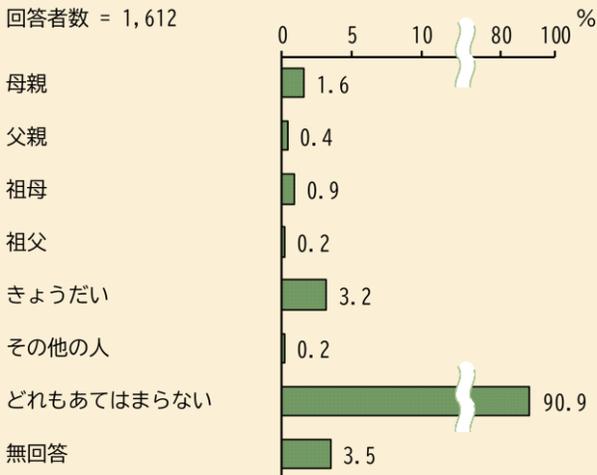
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・本書では回答者全体の結果を示すグラフと、「世話をしている家族がいる」と回答した方に限定した結果の2種類のグラフを掲載しています。前者は回答件数が1,612件、後者は回答件数が90件となります。

## 2 調査結果

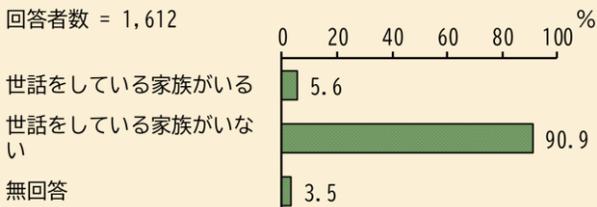
### (1) 世話をしている家族の有無・世話の対象

- 「世話をしている家族がいる」と答えた回答者は全体の5.6%。
- 世話の対象は「きょうだい」が最も多く、次いで「母親」が多い。
- 家族構成別に見た場合、「ひとり親家庭」において世話をしている家族がいる割合が高い。

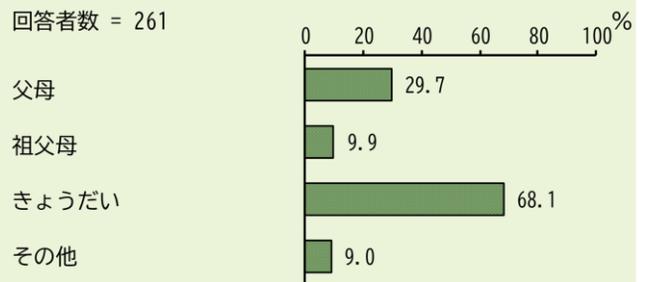
#### ■世話をしている家族の有無



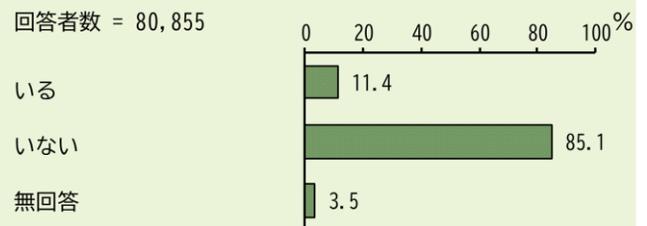
※以下のグラフは上記結果に基づき作成したものです



#### ■【参考】大阪府調査結果



資料：令和4年度府立高校におけるヤングケアラーに関する調査（大阪府）



資料：令和4年度府立高校におけるヤングケアラーに関する調査（大阪府）

#### ■家族構成との関係

単位：%

家族構成	回答者数 (件)	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	三世帯世帯	ひとり親家庭	その他世帯	無回答
世話をしている家族の有無						
全体	1,612	71.2	7.8	17.9	2.0	1.1
世話をしている家族がいる	90	61.1	11.1	24.4	3.3	—
世話をしている家族がない	1,465	72.3	7.7	17.7	1.9	0.4

## (2) 世話の内容

○世話の内容としては、「どれもあてはまらない」を除くと、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も多く、次いで「きょうだいの世話」が多くなっている。また、「見守り」「感情面のサポート（ぐちを聞く、話し相手になるなど）」にも回答があった。



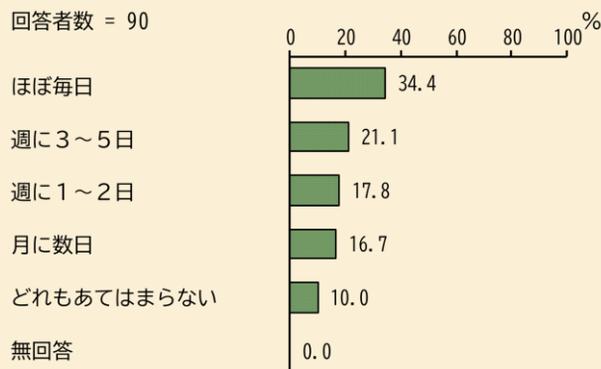
### (3) 世話の頻度と時間・心身のしんどさ

○世話をしている家族がいると答えた回答者のうち、世話を「ほぼ毎日」行っている割合が34.4%、世話に費やす時間が「3時間以上」の割合が10.0%。

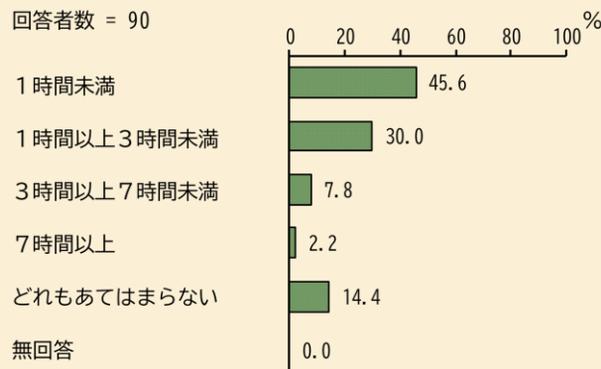
○心身のしんどさについて世話をしている家族の有無別にみると、世話をしている家族がいる回答者は、「身体がときどきしんどい」「心がときどきしんどい」「心がいつもしんどい」「時間的余裕がない」の割合が高くなっている。

■世話をしている家族がいると答えた回答者の世話の頻度と時間

回答者数 = 90

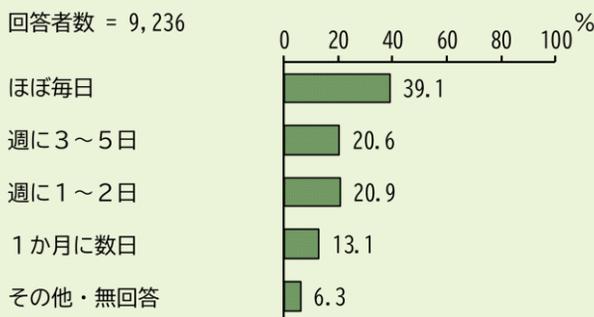


回答者数 = 90



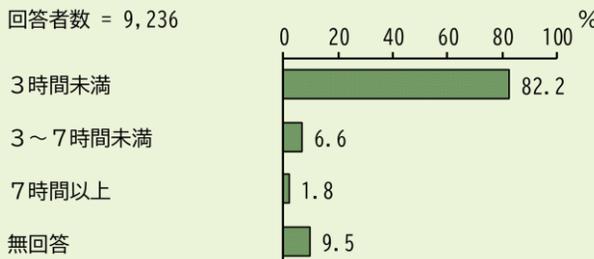
■【参考】大阪府調査結果

回答者数 = 9,236



資料：令和4年度府立高校におけるヤングケアラーに関する調査（大阪府）

回答者数 = 9,236



資料：令和4年度府立高校におけるヤングケアラーに関する調査（大阪府）

■心身のしんどさとの関係

単位：%

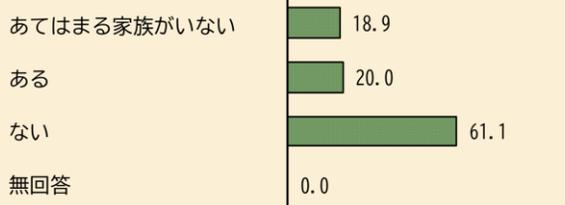
心身のしんどさ 世話をしている 家族の有無	回答者数 (件)	身体がときどき しんどい	身体がいつも しんどい	心がときどき しんどい	心がいつも しんどい	時間的余裕が ない	特にしんどさは 感じていない	どれも あてはまらない	無回答
全体	1,612	1.7	0.5	1.4	0.6	1.9	8.7	77.7	8.8
世話をしている 家族がいる	90	12.2	4.4	13.3	7.8	10.0	40.0	27.8	—
世話をしている 家族がない	1,465	1.2	0.3	0.8	0.2	1.4	7.0	83.3	6.5

## (4) 相談と認知度

- 世話をしている家族がいると答えた回答者のうち、世話を必要としている家族のことや世話をしていることについて相談した経験が「ある」割合は20.0%、「ない」割合は61.1%。
- 回答者全体の中で、ヤングケアラーという言葉が「聞いたことがあり、内容も知っている」と答えた割合は47.5%となっており、半数以上がヤングケアラーという言葉の意味をよく知らないという状況。
- ヤングケアラーの認知度を世話をしている家族の有無別に見た場合、世話をしている家族がいる回答者において、「聞いたことがない」割合が高い。

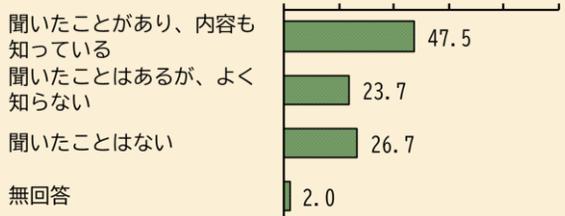
### ■ 世話をしている家族がいると答えた回答者の世話について相談した経験

回答者数 = 90



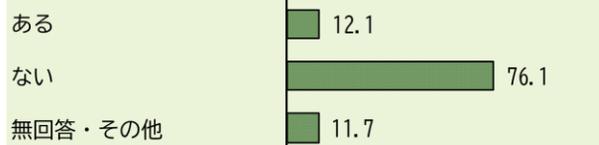
### ■ ヤングケアラーの認知度

回答者数 = 1,612



### ■ 【参考】大阪府調査結果

回答者数 = 9,236



資料：令和4年度府立高校におけるヤングケアラーに関する調査（大阪府）

### ■ 世話をしている家族の有無と認知度の関係

単位：%

世話をしている家族の有無	認知度	回答者数 (件)	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない	無回答
全体		1,612	47.5	23.7	26.7	2.0
世話をしている家族がいる		90	37.8	21.1	40.0	1.1
世話をしている家族がない		1,465	48.1	23.9	26.6	1.5

## (5) 支援のニーズ

○世話をしている家族がいると答えた回答者のうち、世話を必要としている家族や家庭のことについて、あればよい、してくれる人がよいと思うものについて、進路・学業に関するサポートや経済的支援が比較的高い割合で求められている。

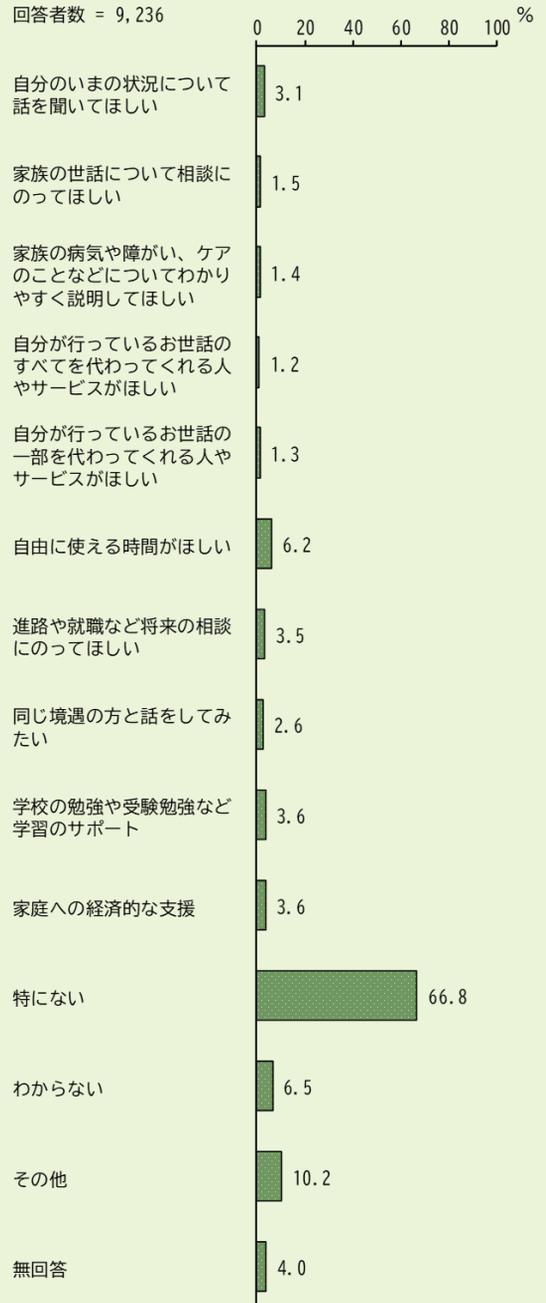
### ■ 世話をしている家族がいると答えた回答者の希望するニーズ

回答者数 = 90



### ■ 【参考】大阪府調査結果

回答者数 = 9,236



資料：令和4年度府立高校におけるヤングケアラーに関する調査（大阪府）

## (6) 自由意見

「ヤングケアラーへの支援を広げていくために、必要だと思ったことや、学校や周りの大人にしてもらいたいこと、あなたがお世話をしていることで感じていることなど」について自由記述形式での意見は、以下の様な結果となった。

分類（全体）	分類（全体）	うち 世話をしている家族が いる方の件数
1. ヤングケアラーへのサポートについて	41件	1件
2. ヤングケアラーについての認識・理解について	43件	0件
3. サービス・支援等について	45件	5件
4. 相談のできる環境・場所について	41件	2件
5. 学校生活について	5件	0件
6. その他	13件	1件
合計	188件	9件

### 【主な意見】

#### 1. ヤングケアラーへのサポートについて

##### 【世話をしている家族がいない方の意見】

- ・ヤングケアラーの人を早く発見して、その人たちへのサポートをする事が大切だと思います。

##### 【世話をしている家族がいる方の意見】

- ・ヤングケアラーの人は自分から誰かに言いにくいと思います。自分がヤングケアラーという事を自覚している人はそれが他人に知られた所で何の解決にもならないと思っています。実際何か助けてくれるサービスってあるんですかね。

#### 2. ヤングケアラーについての認識・理解について

##### 【世話をしている家族がいない方の意見】

- ・ヤングケアラーという言葉だけが広がっているだけでは意味がないので、内容や対応方法まで多くの人を知っていて、理解があるような状況にしていくために、周りの人がどのような手助けや支援ができるかということを広めていくことが必要だと思います。

### 3. サービス・支援等について

#### 【世話をしている家族がいない方の意見】

- ・私はヤングケアラーを必要としている家庭には行政が積極的に支援をしていく必要があると考えています。

#### 【世話をしている家族がいる方の意見】

- ・障がい児や高齢者の世話・介護を行いやすい環境を作らなければならないと思う。具体的には、所得別に、家族を介護施設へ預ける費用の補助をするなど。
- ・必要だと思ったことはお金の支援と世話を代わってくれる人が必要だと思います。

### 4. 相談のできる環境・場所について

#### 【世話をしている家族がいない方の意見】

- ・ヤングケアラーのための相談窓口を充実したら良いかと思います。
- ・担任の先生などや、スクールカウンセラーの人が親身になって話を聞いたり相談に乗ってくれるといいと思います。

#### 【世話をしている家族がいる方の意見】

- ・家族には相談しにくいこととかを聞いてくれる人がいるだけで、すごく安心するから必要だと思う。
- ・ヤングケアラーというものは今日初めて知りました。周りの人達は味方と言って味方してくれますが、ちゃんと話を聞いて貰えないのが辛いです…家族はちゃんと聞いてくれましたが学生の時はちゃんと聞いてもらえなかったので聞いて欲しい人がいるかもしれないので、話を聞いてあげて欲しいなと思います。

### 5. 学校生活について

#### 【世話をしている家族がいない方の意見】

- ・家族の世話により学校へ行くのが難しい人のために、家からでも十分な教育を受けられるような制度があれば良いと思う。

### 6. その他

#### 【世話をしている家族がいない方の意見】

- ・企業のテレワークやフレックスタイム制の導入。
- ・高齢者はあまり機器に詳しくないので、簡単に誰でも操作できるオンラインをつなげられるシステムがあればいいな、と思います。スマホを持ってないので、市町村で貸し出しができる機器を配って欲しいです。

#### 【世話をしている家族がいる方の意見】

- ・お世話することは楽しいのでこれからも続けていきたいと思っています。

## (7) 調査結果のまとめと考察

### (1) 八尾市におけるヤングケアラーの現状

今回の調査においては、「世話をしている家族がいる」と回答した回答者（5.6%）がヤングケアラーに該当すると定義しています。世話の対象としては「きょうだい」が最も多く、行っている世話の内容としては「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」「見守り」等の日常生活のサポート、「感情面のサポート（ぐちを聞く、話し相手になるなど）」の割合が高くなっています。世話の頻度としては、「週に1～2日」「月に数日」が多く、平日・休日ともに「3時間未満」の方が大半となっています。

家族構成別に見た場合、「ひとり親家庭」においてヤングケアラーが多い傾向がみられます。ひとり親家庭の場合、保護者が一人で就労して子育てをしているので、低年齢のきょうだいの世話を年齢の高いきょうだいが行う必要が高くなったり、保護者の感情面のサポートをするなど、ヤングケアラーになってしまうことが推測されます。また、保護者の親、すなわち子どもからみた祖父母の世話が必要な状況にあると、保護者に代わって子どもが祖父母の世話をせざるを得ないということが起きていていると考えられます。ヤングケアラーということで、子ども・子育てという視点のみから支援策を検討するのではなく、「ひとり親」「高齢者」等といった複合的な視点に立った支援を検討することが重要と考えられます。

### (2) ヤングケアラーの健康状態や生活状況

調査結果からは、ヤングケアラーは「身体がときどきしんどい」「心がときどきしんどい」と感じている傾向にあることが示されています。また、ヤングケアラーの方は学校に「よく欠席する」傾向や、学業や友達作りに十分時間をとることができていない傾向、成績や進路に悩みを抱えている傾向、世話に対してしんどいと感じたり、時間的余裕がないと感じたりしている傾向がみられます。家族の世話が心身の健康状態や学生としての生活に負の影響を及ぼしている可能性があることから、より一層のヤングケアラーの把握と支援の充実が求められているといえます。

なお、調査結果では、ヤングケアラーのうち40.0%が「特にしんどさを感じていない」ことが示されています。また、ヤングケアラーのうち26.7%が世話にやりがいを「まあ感じる」と答えていることも示されています。ヤングケアラーを、支援を必要とする困難な状況とだけとらえるのではなく、世話をすることをポジティブに考えている子どもがいるということを考慮して、より多面的に捉えて検討する必要があると考えられます。

### (3) ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度は、「聞いたことがあり、内容も知っている」が47.5%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が23.7%、「聞いたことはない」が26.7%となっています。全体としては、ヤングケアラーの意味を把握している回答者は半数程度であり、引き続き周知が必要です。

また、世話をしている家族の有無別にみた場合、世話をしている家族がいる回答者（ヤングケアラー）の方が、ヤングケアラーについて聞いたことがないとする割合が高くなっています。また、世話をしている家族がいる方であっても、自らをヤングケアラーに当てはまるとは考えていない方も半数近くいる状況となっています。ヤングケアラーという状況に置かれている当事者自身において、ヤングケアラーの認知度が低いということは、ヤングケアラー当事者から声上がる可能性が低いことを意味することから、子どもはもとより、学校関係者や近隣住民等の周囲の大人、介護など専門機関等、直接子どもの支援に携わっていない人や組織を含めた社会全体でヤングケアラーへの理解を深めることが、ヤングケアラーへの気づきにつながると考えられます。特に、今回の調査においてヤングケアラーが家族以外に相談相手としているのが学校関係者や福祉分野の関係者であるという結果になったことから、その結果を踏まえた効果的な周知啓発を検討していくことが重要です。

### (4) ヤングケアラーについての相談

調査結果では、世話をしている家族がいる方で、世話について相談をしたことがある割合は半数以下となっています。相談経験のある方の中でも、市役所や保健センターなどの公的機関への相談割合は全体の中でも低い状況にあります。ヤングケアラーの方は、自ら専門的・公的相談機関に相談する可能性は少ないと想定されます。したがって、ヤングケアラーの方を必要な支援につなぐためには、上記の通り社会全体がヤングケアラーに関する知識や理解を深めるとともに、とりわけ、ひとり親家庭や高齢者への支援に携わる福祉分野の関係者が、同居する子どもがヤングケアラーではないかと気づいた場合に、適切に子ども総合支援センター「ほっぷ」等へつなげることができるネットワークを構築していくことが必要です。

#### (5) ヤングケアラーが求める支援

ヤングケアラーが求める支援としては、進路・学業に関するサポートや経済的支援が比較的高い割合で求められている結果となっています。自由意見では、「物価高の中で貧困家庭への継続的な経済的支援がない現状でこの先どうなるのか不安です」「家族を介護施設へ預ける費用の補助をする」といった経済的支援へのニーズや、「家族には相談しにくいこととかを聞いてくれる人がいるだけで、すごく安心するから必要」といった相談支援へのニーズ、「預かってくれる施設を増やしてほしいです」「地域の登録などなく誰でもいつでも参加できるような学童保育などがあれば私自身が楽になるかなと思います」「お金の支援と世話を代わってくれる人が必要だと思います」といった、世話を代替する施設・サービスへのニーズなどがみられました。

ヤングケアラー当事者はヤングケアラーだという自覚がない人も含み、インターネットやSNSを日常的に使用している子どもが多いとみられることから、当事者に届く情報発信や相談しやすい環境づくりが必要です。また、ヤングケアラーの置かれている状況は家庭ごとに様々であり、上記のように求める支援も多様で複合的な状況となっています。今後も当事者支援を通して積極的な情報収集を図り、ヤングケアラーが実際に求める支援の内容を把握することで適切なサービスを提供していくことが重要になります。なお、個別支援においては、複合的な課題の解決を図るために、関係機関の連携は不可欠であり、こども総合支援センター「ほっぷ」においては、今後も連携を促進し、支援をコーディネートすることが重要であり、さらなる啓発と相談体制の充実に取り組む必要があります。

八尾市中学校卒業後の子どもに関する  
アンケート調査結果報告書 概要版  
令和6年3月

八尾市 こども若者部 こども総合支援課

TEL 072-924-3954

FAX 072-924-9304

刊行物番号R5-216